愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅱ		
担当者(Instructors)	金 良泰	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

専門演習Ⅱでは、学生自身が興味のある研究（テーマ・内容）を見出し、論文作成や発表をするための準備を行う。そのことで、4年次の卒業研究（論文）の作成に必要なスキルを身に付ける。特に、グローバルビジネスに関わる様々な情報を抽出することで、調査したいテーマや内容についての理解を深めつつ、論理的な考え方を身に付ける。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習形式で授業を実施する。授業内容に応じて、ディスカッション及びグループワークを取り入れる。 また、ゼミ論文を作成し、その後にゼミ論文のプレゼンテーションをする。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や注意点等を説明する。また、前期の研究計画書を見直す。	□
第2回	ゼミ論文の作成（書き方の説明）	参考資料をもとに、ゼミ論文の書き方を説明する。	□
第3回	ゼミ論文の作成（研究目的を考える）	参考資料やWEB検索をしながら、ゼミ論文の研究目的を考える。	□
第4回	ゼミ論文の作成（研究目的の作成）	参考資料やWEB検索をしながら、ゼミ論文の研究目的を考える。 その後に研究目的を作成する。	□
第5回	ゼミ論文の作成（研究方法を考える）	参考資料やWEB検索をしながら、ゼミ論文の研究方法を考える。	□
第6回	ゼミ論文の作成（研究方法の作成）	参考資料やWEB検索をしながら、ゼミ論文の研究方法を作成する。	□
第7回	ゼミ論文の作成（各自で調査）	各自で行動し、ゼミ論文の文献調査を行う（図書館・PC室・研究室を使用する）。	□
第8回	ゼミ論文の作成（各自で調査）	各自で行動し、ゼミ論文の文献調査を行う（図書館・PC室・研究室を使用する）。また、調査後の現状報告をする。	□
第9回	ゼミ論文の作成（研究結果を考える）	前回までの調査をもとに、研究結果を考える。	□
第10回	ゼミ論文の作成（研究結果の作成）	前回までの調査をもとに、研究結果を作成し提出する。	□
第11回	ゼミ論文の作成（考察を考える）	前回までの研究結果をもとに、考察を考える。	□
第12回	ゼミ論文の作成（考察の作成）	前回までの研究結果をもとに、考察を作成し提出する。	□
第13回	ゼミ論文の作成（結論の作成、引用文献の書き方）	作成したゼミ論文をもとに、結論と引用文献を作成し提出する。	□
第14回	ゼミ論文の作成（背景の作成）	作成したゼミ論文をもとに、背景を作成する。	□
第15回	ゼミ論文のプレゼンテーション及び授業のまとめ	作成したゼミ論文のプレゼンテーションをする。また、授業全体の振り返りをする。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、各回の授業に関連する資料や文献を読解するなどの予習をしたうえで、次回の授業に臨むこと（毎週2時間）。事後学習として、各授業で学んだ内容を整理し、自分なりにまとめておくこと（毎週2時間）。具体的には、 各回で必要とする資料や課題等の準備を、「テキスト・参考文献・web調査・研究室訪問」を活用し、質の高い内容に仕上げる。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題物については即時に教員がチェックし、改善点を指導する。また、その改善点については、ゼミ内全体に情報共有できるよう適宜学生に伝える。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019地域ビジネスDP2	専門演習Ⅱでは、4年次の卒業研究（論文）の作成に必要なスキルを身に付ける。特に、グローバルビジネスに関わる様々な情報を抽出することで、調査したいテーマや内容についての理解を深めながら熟慮・判断して論理的な考え方を身に付ける。
主体性	◇ 2019地域ビジネスDP3	専門演習Ⅱでは、4年次の卒業研究（論文）の作成に必要なスキルを身に付ける。学生自身が興味のある研究（テーマ・内容）を見出し、調査したいテーマや内容についての理解を深めつつ、主体的に取り組み論理的な考え方を身に付ける。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			70%	30%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

成績評価の内訳は,レポート（ゼミ論文）70%、平常評価10%,　プレゼンテーション10%,　出席10%の計100%とし、全て授業内に実施する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	世界思想社編集部、大学生　学びのハンドブック(第4版)	978-4-7907-1707-2
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	石井一成、ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方、ナツメ社	978-4-8163-5057-3
2		
3		
4		
5		